

令和7年度第2回川崎市食育推進会議部会（摘録）	
日時	令和8年3月2日（月）午後3時～4時50分
会場	川崎市役所本庁舎201会議室
出席者	<p><委員>佐野喜子委員、本所靖博委員、北村恵子委員、石渡宏之委員、笠原佐代子委員（オンライン出席）、笠原好美委員、小川町子委員、中山敏夫委員、小林直樹委員、杉中祐介委員、水庭香菜委員、重友正美委員、稲野辺健一委員</p> <p><事務局>健康福祉局保健医療政策部担当部長 林露子、健康福祉局地域包括ケア推進室地域保健担当課長補佐 田持淑子、市立看護大学公衆衛生看護学領域講師 遠藤雅幸、経済労働局都市農業振興センター農業振興課主任 武重麻衣子、環境局生活環境部減量推進課減量推進係長 小宮智之、指導係長 金刺哲也、こども未来局保育・子育て推進部運営支援担当担当係長 吉島佳那子、教育委員会事務局健康給食推進室食育推進担当指導主事 山口賀子、小野澤園子、健康福祉局保健医療政策部健康増進課長 大西哲史、保健医療政策部担当課長 阪田敬子、健康増進課課長補佐 國米佑宇、担当係長 大坪和恵、担当係長 並河あゆみ、主任 北野葉子、健康増進課 谷草太、前田恵里、高岸悠太朗</p>
欠席者	<委員>萩原ひとみ委員、西尾大輔委員
傍聴人	なし
1 開会	
事務局	当部会は川崎市審議会等の会議公開に関する条例に基づき公開する。
2 議事	
(1) 令和7年度食育の取組について（報告）	
佐野部会長	議事（1）について、事務局から願います。
事務局	資料2-1に基づき、令和7年度の食育の取組報告について説明。不明点や質問があれば願います。
佐野部会長	ただいまの議事について、意見や質問はあるか。
委員一同	なし
佐野部会長	資料2-2について、今年度から新たに御就任いただいた団体の取組や、新規で取り組まれたものを中心に御説明をお願いします。
本所委員	<p>「ふらっとリビング」</p> <p>ふらっと新百合ヶ丘という小さいお子さんから小学生をもつ母親を中心とした団体と小田急不動産からの依頼により実施。麻生区企画課が実施する市民提案型協働事業に採択された事業になる。年に数回、学生が中心となり、柏餅といった和菓子作り等の食育の企画を実施している。</p>
中山委員	<p>「小学校給食（自校献立）への市内農産物納品」</p> <p>本取組は、令和6年10月より食育推進の一環として、市内南部の地場産農産物に触れる機会が少ない地域を中心に試験実施し、令和7年度からは全地区の小学校で実施することとなった。各学校では、年2回の自校献立において地場産野菜を使用</p>

	<p>するかを判断し、使用する場合には農産物を提供している。</p> <p>提供する農産物は、主にセレサモスで取り扱う、農薬や肥料の使用管理が適切な、安心・安全な食材である。小松菜、キャベツ、のらぼう菜、玉ねぎ、にんにく、しょうが、さつまいも等、計15品目を納品し、総量530kg、売上額は税込26万3千円であった。</p> <p>また、昨年11月には、川崎市が「SDGs×健康給食」として学校給食で特別栽培米や有機農産物を使用した献立を実施した旨の報道発表があった。この取組は、長尾小学校、東生田小学校、宿河原小学校において、開校記念日のお祝い給食や総合的な学習の時間で児童が献立を考案するものであった。</p> <p>最近では、一部学校から国産の特別栽培米を使用したいとの要望が寄せられている。特別栽培米とは、国のガイドラインに基づき、化学農薬・化学肥料の使用を50%以上削減して栽培した米であり、富山県産コシヒカリや宮城県産ひとめぼれを、農協を通じて納品している。</p>
小林委員	<p>「市・各区主催防災訓練における在宅避難時の「食」の取組」</p> <p>令和6年度から危機管理本部と連携し、これまで周知していた身近な防災としてのガス復旧方法に加え、在宅避難に役立つ情報提供の内容検討を行った。備蓄食品を美味しく食べる方法について、管理栄養士を中心に検討を行い、ローリングストックを活用した「もしものご飯」を日常的に食べることで美味しく防災を考える取組を実施した。レシピは、ホームページ上で「日々のごはん」ともしものごはん」として公開しており、防災訓練ではその一部を冊子にして配布した。</p> <p>本取組は、令和6年度は一部の区で開始し、令和7年度から全区で実施することとなった。宮前区については衆院選のため中止となり未実施だが、速やかに実施できるよう準備を整えている。また、要望があれば冊子の提供も可能である。</p>
杉中委員	<p>「当社イベントあじ祭りへの健康福祉局のイベントブース出展」</p> <p>本イベントは、地域とのつながりを強化することを目的として毎年11月に実施している。工場見学、世界のキッチンカー、パラリンピック選手による手話体験等、来場者が交流できる多様な企画を実施している。</p> <p>今年度は「防災&安全フェス」の一部として、健康福祉局が新たに出展した。これは、川崎市が令和6年度にリーフレット「備蓄のすすめ」を更新し、啓発を進めるために弊社との協働の可能性を検討した結果、パッククッキング体験コーナーを設置することになったものである。</p> <p>当日の来場者は2,000人であり、パッククッキングについては試食のみの来場者を含め約450名が参加した。パッククッキングを知らない来場者が多く、体験を通じて有用性やおいしさを知ってもらうことで、災害への備えに対する意識向上が図られた。</p> <p>体験ではパッククッキングによる炊飯と「パワーボール」を提供した。パワーボールは、ご飯にほんだしを混ぜたもので、アスリートの補食として利用されている。50gで約80kcalとなり、味があることで緊張時でも食べやすく、摂取量からエネルギー</p>

	<p>ギー量が把握しやすい特徴がある。災害時にも簡便に作れるため、今回紹介した。</p> <p>次年度以降も、本取組を継続しつつ内容を進化させながら実施していきたい。</p>
水庭委員	<p>「店舗近隣の保育園や小学校での出前授業、店舗での食育イベント」</p> <p>出前講座は20年前から実施しているもので、店舗から1 km以内の保育園や小学校を対象に4月にDMを送付し、希望があった施設で実施している。</p> <p>全国で年間約200回行っている。川崎市では昨年度の実績は、保育園では向ヶ丘遊園店、溝の口店、川崎駅のルフロンの近くの保育園で5件実施した。小学校については、宿河原の小学校や、お店での社会科見学の実施ができないため、出前授業をしてほしいという依頼のあった東高津小学校で実施した。</p> <p>保育園における食育については、ファイブ・ア・デイ協会のツールを使用して3色食品群の話を実施している。まず、朝ご飯を絵にかいてもらい、バランスがどうかを考えてもらう。黄色の主食はあるが、緑の野菜のグループが不足しがちなことが多いため、野菜をたくさん食べるように伝えている。</p> <p>他にもメーカーと連携した取組を実施しており、川崎塚越店では森永製菓と一緒に、チョコモナカジャンボのパリパリの秘密についての講座を実施したほか、雪印メグミルクと牛乳、ヨーグルト、フルーツを混ぜてラッシーを作る講座を実施した。</p> <p>都度、御提案をいただきながら内容を調整しているため、年度によって実施内容は変動するが、出前や店舗での食育活動については、引き続き継続していきたいと考えている。</p>
佐野部会長	<p>様々なアプローチ方法の食育について御紹介いただいた。食に興味や関心を持つ人を増やしていきたいと考える。引き続きの御協力をお願いします。</p> <p>取組について意見や質問はあるか。</p>
委員一同	なし
(2) 自然と健康になれる食環境づくりについて	
佐野部会長	議事(2)について、事務局からお願いします。
事務局	<p>資料3-1、3-2に基づき、自然と健康になれる食環境づくりに関する取組案1の説明。</p> <p>昨年11月に実施した第1回食育推進会議部会において、今後本市として取り組むべき案のうち、「健康的な生活を実践するための仕組みづくり」を中心に取り組むことを決定した。</p> <p>本市の食に関する課題や、これまでに委員の皆様からいただいた御意見を踏まえ、健康的な生活を実践するための仕組みづくりのうち、まずは「野菜摂取量の増加」について検討を進めていきたいと考える。</p> <p>については具体的な取組案として、2つの案を御提案させていただく。1つめとしては、「野菜が必要量とれる環境づくりについて」になる。市販の惣菜や外食に含まれる野菜量を見える化することにより、自分の必要量や不足量を把握し、適切な野菜摂取を促す取組を行いたいと考える。具体的には、市として、野菜が一定量とれ</p>

	<p>ることを示す基準とそのマークを定め、市販の惣菜やお弁当、外食に掲示することにより、個人が必要な野菜量を選択できる環境を整えたいと考える。</p> <p>このような基準が必要か、また、設定する場合は、その具体的な基準について御意見を願います。2つめの御提案については、取組案1つめについて御検討をいただいた後に改めて説明する。</p>
佐野部会長	<p>取組案1について御意見を願います。</p> <p>野菜が一定量含まれていることを示すための基準を、市として公的に設定することの是非について、御意見をいただきたい。</p> <p>茄子1つといった単品食材であれば重さを把握できるが、惣菜や料理となると、野菜の含有量を外から判断することは難しい。そのため、使用した野菜の量については、作り手側が示す必要がある。藤沢市は野菜が100g以上含まれる場合、該当商品にシールを貼るということを行い、キャンペーンがしやすくなったという話を聞いた。1つ取ると100gと非常に分かりやすく、教育には良いが、発信していく立場、委員の方、特にスーパーの方はどう思われるのか御意見を伺いたい。</p> <p>まずは、基準を設ける必要性について検討し、必要と判断される場合には、その内容について検討を進めていきたい。</p>
本所委員	<p>本校の学生が、ゼミの卒業論文において野菜摂取量をテーマに取り組み、川崎市への提言として、ChatGPTを活用し「ベジマーク」の作成等を行った。</p> <p>認定基準を作成するとなると根拠が問われると思うが、それは可能なのか。認定したシールを貼り付けるとした場合、誰がいつ貼るのか。また、実際に各店舗で基準が順守されることについて、どのように担保するのか。冷凍食品は含めるのかといったことを考える必要がある。一方、まずは、できることからやっという考えも必要である。行政と事業者その可能性を探る必要があると考える。</p>
事務局	<p>認定基準を定められるかという点については、適切な根拠がある場合には、所定の手続きを経て設定することが可能であると考えている。</p> <p>誰がシールを貼付するのかという点については、ライフ様以外のスーパーの方々との対話の中で、人手不足の状況から、ポップの掲示など人手を要する作業は難しいとの御意見をいただいている。また、むしろデジタルで情報発信に協力する方が容易ではないかという声もあり、シール貼付については課題があるとの認識を持っている。</p> <p>各商品へのシールの貼付ではなく、立てかけ式の掲示物を作成し、その裏手にあるものはある一定以上の野菜が含まれる商品であることを認知していただけるような仕組みづくりや、シール以外の方法についても皆様から御意見をいただければと考えている。</p>
佐野部会長	<p>シールに限らず、「野菜が一定量含まれることを表示するか否か」という点について、その基準を設けるかどうかを、まずは検討していきたい。</p>
本所委員	<p>セブンイレブンでは、注目させたい商品を目の高さに一面で陳列することで、利用者にとって視認性を高め、手に取りやすくしている。迷った際に手が伸びやすい</p>

	<p>よう工夫された、効果的な陳列方法である。</p> <p>基準の担保に関しては、スーパーが「150g 含まれている」と測定した内容について、誰がどのように監査するのか、また各店舗の測定結果をどの程度信用するのかといった点が課題となる。すべての商品の確認を川崎市が担う方法は現実的ではないため、この取組を実現するためにどのような仕組みや工夫が可能かについて、検討する必要がある。</p>
佐野部会長	<p>例えば、野菜 100 g とすると、漬物 100 g はよいのか、塩分についてはどう考えるのかとなるが、まずは野菜で考えるので良いのではないかと考えている。その辺りいかがか。</p>
北村委員	<p>川崎市で基準を作るということは難しいと思う。</p> <p>野菜摂取の目標量が 350 g 以上というのは全国的に広まっている。それに加え、何の基準を作るのかが疑問である。各食品に含まれる野菜量を示すだけで十分であると考え。</p> <p>カット野菜やサラダはグラム数が書かれているためすぐ分かると思うが、丸々 1 個販売されている野菜がどのくらいの重さかは分かりにくい。栄養士会では手ばかりによる各野菜の大まかな重さを示している。これをこれくらい食べれば 1 日の必要量に足りるといった大まかな部分を伝えていければよいと思う。</p> <p>お惣菜については、外見から野菜の含有量を把握することができないため、メーカーとしてどのように対応するかが課題となる。また、川崎市として基準を定める場合には、その根拠を明確に示す必要があることから、設定には難しさが伴うと考える。</p>
佐野部会長	<p>基準の考え方は 2 つあると思う。野菜の摂取目標量については、その根拠が必要であるが、今話題にしている各料理に含まれる野菜量については、根拠は不要であり、野菜が一定量含まれていればよい。</p>
北村委員	<p>野菜摂取の目標量については国の目標値を示し、各料理には野菜が含まれる量を示せばよい。市が新たに摂取量について目標量を設定すると誤解があった。</p>
佐野部会長	<p>基準という言葉が分かりにくかった。表示する量という認識でよいか。</p>
事務局	<p>御理解のとおり。</p>
佐野部会長	<p>料理に含まれる野菜の量は、見た目で分からないため、その量の表示をする際に、それぞれ 1 g 単位まで細かくすることは難しいため、ある一定の目安を決めて、それを表示しようという話であると理解する。</p>
水庭委員	<p>グラム数で表示を設けてライフ店舗で掲示をするのは、売り場を大々的に変えないといけないため非現実的である。</p> <p>シールについて社内でも検討したが、川崎市のみで実施する場合も、全店舗で実施する場合も、現段階ではその対応が難しい。</p> <p>お弁当にはあまり野菜が含まれていないため、種類は限られるが、単品料理の煮物、ポテトサラダ等の野菜が含まれる商品について、「これを食べれば野菜が〇〇 g</p>

	以上とれます」というPOPを掲示することは可能かと思う。全ての総菜にというのは難しいため、品群はこちらで絞って検討したいと考える。
佐野部会長	「できるところからは始める。それが好評であれば横展開していく。」という考え方で良いと思う。これとこれには野菜が一定以上入っていると分かるだけでも十分だと考える。本所委員の発言に先ほどあったが、消費者が「迷ったときに取ってみよう」となることが目指すところではないかと思う。
石渡委員	野菜の重量の担保については、野菜を計測し、朝 100 g 入っているものが昼に減るということがないなら、特段問題はないかと思う。各店舗は、グラムを計測し小分けして販売しているため、値段とそのグラムが表示されている。ポテトサラダは 200g 等の記載があり、そういった総菜について野菜が一定量とれますといったPOP表示をするだけでも十分だと思う。
小川委員	消費者としては、表示があると便利だと思う。特に一人暮らしや高齢の方は、野菜の必要性は理解していても調理の負担から総菜を購入する方が多くみられる。これまでも「購入した総菜に家庭で野菜を足しましょう」という啓発を行ってきたが、表示があることで実際に何グラム足せばよいか分かり、より活用しやすくなる。 販売者の小売店の方は大変な作業になると想像するが、取り組みやすいところから、目につきやすいPOPの表示など少しずつ始めていただけると良いのではないかと考える。
佐野部会長	本日欠席の委員からの御意見は伺っているか。
事務局	西尾委員からは、「啓発の主旨については賛同する。マークを付ける場合、その基準については必要と思う。また、既にユーコープの商品には同様のマークを表示しているものもある」とのこと。 食品衛生協会の萩原委員からは、「本取組の主旨について賛同する。小売店だけでなく、食品衛生協会に加盟している外食店にも同様に広めていけるとよい。取組内容については、食品衛生協会を通じて紹介することが可能。」と伺っている。
小林委員	基準を作るとなると悩むが、まずは目安を示す統一のPOPを掲示することが第一歩であると思う。
稲野辺委員	私自身、普段スポーツしていることから、食品パッケージに記載されているカロリーやたんぱく質量などの栄養成分表示を重視している。野菜摂取については、1日 350g という摂取目安量が厚生労働省から推奨示されているものの、1種類の野菜を 350g 摂取するだけでは不十分である。根菜類や豆類などをバランスよく摂ることが重要である。このようなワンポイントアドバイスを「川崎モデル」として情報発信し、意識啓発に繋がる事が好ましいと考える。 また、野菜と動物性たんぱく質を組み合わせることで得られる栄養効果など、消費者が栄養バランスを意識できるような仕組みづくりも重要であると考えている。
佐野部会長	「基準」や「表示」という表現があるが、野菜の摂取目標量は国が示しているものであり、個人がその目標を達成するためには、購入しようとしている商品の野菜量が分かる表示が必要となる。したがって、「基準」ではなく、目標達成を支援するた

	めの「表示」の必要性についての話になる。
笠原（好）委員	消費者の立場として、おかずをスーパーで購入する際に野菜の含まれる量が記載されていると不足分を確認でき助かると思う。
中山委員	野菜が何グラム入っているかを示すよりも、「1日の1/2がとれる」といった表記に、川崎市推奨のマークを加えたシンプルな表示の方がインパクトがあると思う。
杉中委員	個人的な意見にはなるが、1日分の量で考えるよりも、「野菜が100g不足している。」「食堂の定食に野菜の小鉢を追加して50gとれた」といった足し算の表記の方が分かりやすいと感じる。
重友委員	<p>すべてを一つの基準でまとめるのは難しいと思う。外食や弁当については、「1日分」や「半日分」といった表現の方が分かりやすい一方で、総菜の場合は“買い合わせ”を促す方がポジティブであり、茶色い煮物を野菜と認識していない人もいるため、実は煮物の方が千切りキャベツよりも多くの野菜がとれることを示す工夫も有効ではないかと思う。</p> <p>また、食育の目標には「1日4皿以上の野菜摂取」や「主食・主菜・副菜をそろえて食べること」が含まれており、総菜においても「そろえて食べる」ことを促す表示や、自然と手に取りやすくなる陳列など、環境整備によって野菜を選びやすくすることがよいかと思う。</p>
佐野部会長	「野菜を食べましょう」という摂取を促すポスターだけでなく、不足分を補うために野菜の重量的な表示があった方がよいという意見が共通して出されたという理解でよろしいか。意義を唱える委員はいらっしゃるか。
笠原（佐）委員	お弁当はそもそも野菜の含有量が少ないのであれば、弁当自体に野菜量の表示を求める必要性は高くないのではないかと考える。一方で、惣菜で野菜を補うという視点に立つと、まずは「野菜が必要である」という認識を広める啓発が重要であり、その上でなぜ350gの摂取が必要か、健康的な生活につながる理由を示す情報提供が必要である。もちろん、どれくらい野菜が含まれているかという表示も最終的には重要だが、その前段階の取組が欠かせない。また、意識の高い人だけに向けるのではなく、意識の低い層への対応も検討する必要がある。具体的な方策については、皆様の意見に賛同する。
佐野部会長	<p>取組案1については、現状として「自分にとって適切な食事内容や量を把握している人は約6割」という調査結果がある一方、加工食品では含まれる野菜量が分かりにくいという状況がある。野菜摂取量が不足している現状を踏まえると、今まさにとろうとしている食品で「どの程度の野菜がとれるのか」を示す目安量の表示が必要であるという点について、概ね皆様から御理解をいただけたものと認識している。</p> <p>今回提示された「野菜が一定量とれることを示す」という方向性について、どのように考えるか。野菜が一定量取れることよりも、ざっくばらんな量の方がよいといった意見があったように感じる。市側は一定量についてはどのように考えていたのか。</p>

事務局	各商品の野菜量を個別に記載することが理想ではあるものの、現実的には難しい。そこで、現状とねらいを踏まえ、含まれる野菜量について何らかの数字を示すことで、消費者が野菜量を体感し、気づきを得られるようにするという考え方であった。具体的には、不足している 100g の野菜量や、1 日の目標量の 3 分の 1 が摂取できるといった表示を想定している。
佐野部会長	100 g で示すことにこだわりはあるか。
事務局	<p>特段のこだわりはない。カット野菜を除くと、市販の惣菜に含まれる野菜量は 100g に満たないものが多いのであれば、100g という量を定めても掲示できる商品が少なくなるのが想定される。</p> <p>本日欠席の萩原委員から「認証マークを設定することにより、そのマークが市内飲食店、惣菜、給食などのメニューに載るようになれば、健康への食の認知が様々な場面で広がり、市民が楽しみながら健康になれる仕組みができると思う。各飲食店でも、認証マークのメニューを提供するかどうか検討する段階から、作る方も、サービスする方も、意識が変わってくるので、広範囲で効果がでてくる可能性がある」と御意見をいただいた。例えば、市が 70g、100g と数値を定めた場合、現在の提供量は満たしていなくても、「掲示できるように野菜量を少し増やしてみよう」といった試みが生まれる可能性があるとの御意見をいただいたため御紹介させていただく。</p>
佐野部会長	<p>50g でもよいと思う。色々なものを食べようといった意見もあったが、50g を 2 つ組み合わせれば不足量に達する。「どの組み合わせで野菜を食べますか」というキャンペーンもあると思う。商品により表示の量は変えてもよく、多様な表示方法が考えられる。</p> <p>川崎市が野菜をとることを推奨することについては皆さん賛成でよいか。</p>
委員一同	同意
佐野部会長	その場合、市が推奨していることが分かるマークが必要だと思う。川崎市にロゴマークはあるか。使用にあたって許可が必要かどうかについて伺いたい。
事務局	川崎市のブランドメッセージのロゴマークとして、使用可能なデザインがいくつかある。川の字がモチーフになっている。
重友委員	市のメロンのようなキャラクターや、難しいことは承知しているが、ドラえもんはいかがか。
事務局	メロンのようなキャラクターは宮前区の PR キャラクターになる。
事務局	<p>手持ちのものであると計画冊子「かわさき健康づくり・食育プラン」の表紙にある「かわさき健幸うさぎ はっぴーちゃん」や「食育推進キャラクター しよくいくん」がある。</p> <p>企業のマークも検討している。例えば全国的にそして市民にも認知度の高いフロンターレ等に交渉することは可能と考える。</p>
石渡委員	フロンターレだとカブレラになるか。野菜のカブがモチーフである。
佐野部会長	皆様の御意見を踏まえて、令和 8 年度に向けては、野菜不足に対し、表示等を示

	して発信していくことについて具体的に検討をすすめる方向性でよいか。
委員一同	同意
石渡委員	関心がない方も取組に参加してもらえるよう、工夫を取り入れるとよい。例えば、シールにポイントを付与するなどの仕掛けがあると効果的ではないか。
佐野部会長	<p>スーパーに限らず、アプリで情報を取得する方にはアプリを通じてアプローチするなど、さまざまな手段で発信していく方法を検討したい。基準というよりも数値を示し、市として取り組んでいることをアピールできるロゴを考えていけるとよいのではないかとということで、今後その方向で検討を進める。こうした取組が環境整備につながるよう考えていきたい。</p> <p>続いて、取組案2について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料3-1、11ページ以降に基づき、取組案2について説明。</p> <p>野菜摂取量を増やすためのアプリの活用になる。</p> <p>検討に際しては、皆様からの御意見を参考にさせていただいた。</p> <p>前回の部会では、各企業単位ではなく、市として全体向けに発信ができると望ましいといった御意見をいただいた。本市のウォーキングアプリである TEKTEK については、運動に時間が取れないことが多い、忙しい働き世代を対象に手軽に歩いてポイントを貯めるということをコンセプトにしているため、食に関する機能を新設することについては、アプリのコンセプトに合わない状況があるが、本市公式 LINE については、2月末にリニューアルされ、受信したい配信カテゴリや地域を設定できる機能が加わり、市民一人ひとりが必要な情報を受け取りやすくなった。受信設定で「健康・保健・医療」を選択いただいた方には食育に関する情報を発信できるようになったため、活用を予定する。</p> <p>取組案2としては、情報発信を強化し、買い物の場で自然に健康を意識した食品選択を促したいと考える。取組については、一企業ではなく市内複数のスーパー、コンビニエンスストア、また日用品と食品を同時に購入することができるドラッグストアについても、連携の依頼をしていきたいと考える。</p> <p>本日は、皆様からアプリで発信する内容について御意見をいただけますようお願いする。</p>
佐野部会長	事務局の説明について、御意見や御質問があればお願いします。
重友委員	小学生と中学生の子どもがいるが、コロナ禍で中止されていた給食の試食会が再開されたため参加した。給食はおいしく、栄養面もよく考えられており感謝している。また、仕事の中で、昨今の物価高騰の影響もあり、一般の方々も給食レシピを見直す機会が増えているという話を聞いた。物価高騰の中、限られた食材料費で子どもたちの健康を守る給食レシピは非常に価値があると感じている。ついては、発信内容として、給食だよりも掲載があると思うが、「今週のおすすめ」や「子どもに人気のメニュー」等、レシピを紹介していただけるとありがたい。
石渡委員	家族が、料理の写真を撮るとカロリーが表示されるアプリを利用しているが、その中で野菜量がどの程度分かる仕組みがあるとよいと感じている。また、今日の

	<p>食事が何点といった形で評価されると分かりやすいのではないかと思った。こうした機能が活用できるようになるとよいと感じている。</p>
本所委員	<p>カロリーが表示されるアプリは何度か使用したことがあるが、思ったように認識してくれないことが多い。認識エラーが多く、手作業で修正する手間が大きいと感じている。取組案 1 にも関係するが、行動変容をどの場面で促すか、またインセンティブをどう設けるかを考える必要がある。川崎市は食の外部化が進んでおり、コンビニの密度が横浜市より高く外食しやすい環境にあるため、野菜摂取量が政令指定都市の中でも最も低い状況となっている。行動変容を促すことは難しいが、野菜がとれる商品をつい手に取れる工夫があるとよい。</p> <p>目標量の 1/2 や 1/4 がとれるといった表示は野菜不足の人向け、意識の高く野菜がとれている人には「50g プラス」など加点型の表示になるため、対象によって分けてもよいのではないか。また、購入してアプリで読み込むとポイントが付与されるなど、楽しめる仕組みがあると継続につながると思う。そういう仕掛けを考える必要がある。</p>
佐野部会長	<p>野菜の摂取状況については、全くとれていない人と、努力して維持している人の二層化が起きている。そのため、表示の表現を一つに絞り込む必要はなく、皆さんからいただいた意見を踏まえて考えていきたい。</p> <p>アプリで発信する内容について、必要な野菜摂取量の示し方にはさまざまな方法があると思う。給食の内容を発信してはどうかとの意見もあったが、給食情報は保護者には届く一方で、それ以外の方々には届いていないこともある。日本の祭事に合わせて旬の食材を最も届けているのは、実は給食かもしれないという話もテレビで見た。今後は、さまざまな人を対象に広く発信し、その中から興味のある人が必要な情報を拾えるような形になるのではないかと考える。</p> <p>市の LINE による情報発信も 2 月から開始されたとのことで、発信内容を十分に検討することで、届けたい情報がより市民に届く可能性が高まると考えられる。</p> <p>ターゲット層をどう考えるか。考える中で必然的に決まることもあり、絞らなくてもよいのではと思うが、食育の PR としてターゲットを絞った方がよいのか。</p>
事務局	<p>計画では若い世代、働き盛り世代を重点対象としているため、そちらを押えつつ、ターゲット設定については年代による分け方だけでなく、野菜摂取への関心度による区分も考えられる。すべてのターゲットに向けて情報発信できることが望ましいが、現実的には難しい面もある。ある程度ターゲットを設定した方が意見はまとめやすいと考えるものの、必ずしも対象を絞り込む必要はないと考える。</p>
佐野部会長	<p>これまでの意見では、関心度の有無で区分してはどうかという意見があったほか、第 1 回部会では、情報が届きにくい働き世代への働きかけについての意見も出されたと認識している。</p>
水庭委員	<p>アプリ配信について、配信回数の想定はあるのか伺いたい。発信回数にもよるが、食に関心がある層、ない層に向けた内容を交互に発信することで、より多くの方に情報が届くのではないかと考える。回数を設定した方が、内容の検討がしやすいよ</p>

	<p>うに感じている。</p> <p>また、アプリの配信内容は売場に同じデザインを掲示することを想定しているとのことだが、先ほど御提案にあった給食レシピについては、スーパー側としては掲示が難しいのではないかと感じる。内容に応じて、店舗で掲示するかどうかを検討できるとよいと思う。</p>
佐野部会長	<p>アプリ配信の具体的な内容は令和8年度に検討でもよいか。少し方向性が必要な場合、計画に記載のある若い世代からの生活習慣病予防を目的にアプリで情報発信をしていくという形でもよいと思う。</p>
事務局	<p>アプリによる発信は、可能であれば令和8年度から取り組みたいと考えるため御意見をいただきたいところではあるが、発信については継続的に取り組みたいと考えるため、まずは現時点での案に取り組み、次に御検討いただいた層に取り組むことも可能と考える。</p> <p>水庭委員から御質問のあったアプリの配信回数については、御協力いただける企業様次第であり、発信内容については可能な限り市内統一とし、発信回数については、各企業様と個別で調整と考える。</p>
佐野部会長	<p>誤解があった。今検討しているアプリは市のLINEではなく、スーパーを利用する人を対象とした各スーパーのアプリということか。その場合、企業様の協力なしに実現できないため、スーパーのターゲットについて改めて確認をさせていただきたい。</p>
水庭委員	<p>スーパーライフでは、健康や身体・地球に優しい商品を展開するプライベートブランド「BIO-RAL」を扱っており、20代の働く女性や子どものいる家庭の母親を主な対象として、健康に配慮した商品の提供に力を入れている。</p> <p>よく利用される客層としては、女性の20～30代・40代が多い状況にあるが、これはライフ全体の傾向であるため、川崎市としてのターゲットについては後日確認し、報告したい。</p>
本所委員	<p>食品を購入する場所について、スーパーで購入する人は比較的健康意識の高い人や内食の人だと思う。今、問題になっているのは、20・30代の朝食欠食者、彼らは、朝食は欠食か、コンビニ、外食で購入と思われるため、そこにリーチができなくなる。</p> <p>企業とイベントを開催すると、情報発信のタイミング等について、企業側はよく研究している。コンビニは、朝出勤前等に行く人が多いので、朝のタイミングで発信、スーパーであれば夕方方が有効的であり、全てを一律にするのはセンスがない。発信のタイミングは、事業者とよく調整する必要がある。</p> <p>課題とやることに齟齬があると感じる。</p>
佐野部会長	<p>できることから実施と考えるが、次回の部会はいつを予定しているか。</p>
事務局	<p>6月、7月を予定している。</p>
佐野部会長	<p>そこで検討だと遅いか。</p>
事務局	<p>問題ない。</p>

佐野部会長	<p>次回の検討でもよいとの御意見を踏まえ、まずはスーパーを対象とし、次に緊急性の高い若者世代向けの取組を検討していく方向でよいのではないかと考える。</p> <p>本日はさまざまな御意見をいただいたため、事務局において内容を整理し、実際に何を決める必要があるのか、また、できることから着手してよいのかといった点を明確にさせていただき、次回の会議で結論を出していきたいと考える。</p> <p>委員の皆様におかれては、情報発信につながる具体的なアイデアをお持ち寄りいただき、次回御参加いただければ幸いです。</p> <p>発信側が伝えたいことだけでなく、受け手にとって「響く」内容となるかどうか、その視点も踏まえて検討を進めたい。現実性を含め、どのような形で発信できるかというレベルまで具体化した上で、方向性を定めていければと考える。</p>
(3) 令和8年度食育の取組について	
佐野部会長	議事(3)について、事務局からお願いします。
事務局	資料4に基づき、令和8年度食育の取組について説明。
佐野部会長	ただいまの議事について、意見や質問はあるか。
委員一同	なし
佐野部会長	議事が終了したので、進行を事務局にお戻しする。
事務局	佐野部会長、円滑な議事進行についてお礼を申し上げます。
3 その他	
事務局	その他について、委員の皆様から、何かあるか。
委員一同	(特になし)
事務局	次回は7月頃を予定しているため、事務局から改めて案内する。
4 閉会	